聖書日課『からし種』2024.9.8－9.15

9月8日 （日） エレミヤ 27章	**「主はわたしにこう言われる。軛（くびき）の横木と綱を作って、あなたの首にはめよ」（2節）。**「軛」は家畜の首にはめて農耕させる道具。エレミヤはそれを首にはめた姿を人々の前にさらし「バビロンの奴隷」となる将来を預言するよう命じられた。主イエスは、私たちが担うべき「軛」を共に負う救い主として来られた。この方の救いを賛美して新しい週を始めよう。
9日 （月） エレミヤ 28章	**「平和を預言する者は、その言葉が成就するとき初めて、まことに主が遣わされた預言者であることが分かる」（9節）。**バビロンからの「解放」を語ったハナンヤと「滅び」を語ったエレミヤの対決。それを聞いた人々は「いったいどちらが正しいのか」と戸惑ったことだろう。「十字架の主が真の平和を成就された！」と、新約聖書を通して知らされている恵みに感謝。
10日 （火） エレミヤ 29章	**「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである」（11節）。** 目の前のことで精一杯で「これからどうなるのだろう…」と不安がふくらむ私たち。しかし主が（！）計画を立ててくださっている。「私たちの計画」ではなく「主の計画」がなりますように。
11日 （水） エレミヤ 30章	**「なぜ傷口を見て叫ぶのか。お前の痛みはいやされない。お前の悪が甚だしく／罪がおびただしいので／わたしがお前にこうしたのだ」（15節）。**今イスラエルが直面する悲劇の元凶は「君たち自身の罪と悪にあることをしっかり見つめろ！」と厳しく迫りつつ、「わたしがお前の傷を治し／打ち傷をいやそう」（17節）と語りかけられる主の深い慈しみが心にしみる。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

聖書日課『からし種』2024.9.8－9.15

12日 （木） エレミヤ 31章	**「遠くから、主はわたしに現れた。わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し／変わることなく慈しみを注ぐ。おとめイスラエルよ／再び、わたしはあなたを固く建てる」（３－４節）。**私たちが勝手に主から遠く離れていたのに、主の方がとこしえの愛を携えて近づき、変わることのない慈しみをもって私たちを建て直してくださる。主の慈しみによるリコンストラクション。
13日 （金） エレミヤ 32章	**「わたしは彼らに恵みを与えることを喜びとし、心と思いを込めて確かに彼らをこの土地に植える」（41節）。**神さまが私たちに「恵みを与えること」を喜びとされているとは、何とうれしい言葉だろう。各々が生かされている「この土地」は、神さまが心と思いを込めて私たちを「植えて」くださった場所。その神さまの祈りを覚えて「この土地」を愛することができますように。
14日 （土） エレミヤ 33章	**「しかし、見よ、わたしはこの都に、いやしと治癒と回復とをもたらし、彼らをいやしてまことの平和を豊かに示す」（6節）。**「この都」とは主の恵みをすべて失い、すっかり破壊されてしまったエルサレムのこと。人の目には不可能と思われる現実の中に十字架の主は働きたもう。暗い部屋に閉じこもり隠れていた弟子たちに、主イエスが愛を携え来てくださったように。
15日 （日） エレミヤ 34章	**「わたしはお前たちに解放を宣言する、と主は言われる。それは剣、疫病、飢饉に渡す解放である」（17節）。**イスラエルの民は主のみ言葉通りに6年間仕えた同胞の奴隷を解放した。そこで、主はバビロンの軍隊をエルサレムから離れさせた。しかし、時が好転すると民は再び奴隷を働かせた。主の教えに反すると手痛い目に遭うことになる。

大井バプテスト教会